

農業DX構想（仮称）検討会（第3回）
議事要旨

日時：令和3年2月24日（水）13:00～15:00

場所：Web 会議システムを用いたオンライン開催

出席者：別紙のとおり

【議題概要】

- 農林水産省から、データを活用した農業を行っている農業経営体に係る統計の詳細分析の結果のほか、農業DXの目的や農業DX推進の基本的視点、農業・食関連産業の関係者からこれまでに寄せられているご意見の概要等について説明があった。

- その後、以下のような議論があった。
 - ・ 事務局から農業DX実現に向けた課題を「現場」、「業務」及び「基盤」に分けて議論してはどうかと説明があったが、それらの課題が解決された場合に全体としてどのような変革がもたらされるのかについても示すことができないか。
 - ・ 「現場」、「業務」及び「基盤」の区分ごとのあるべき姿を議論してもよいのではないか。
 - ・ 農業分野の変革の取組であっても、例えばベース・レジストリは省庁横断的な課題であるし、新技術の導入には費用対効果が課題となる場合があるなど、農業以外の分野がどのように関係するかも十分に考慮して、一段高い目線で解決の道を検討することが必要。
 - ・ 新技術の提供に向けた起業家の育成など、より多くの解決策を連続して産み出していくために個別的な取組が必要な課題がある一方、バリューチェーンにおけるデータ連携のように、川上から川下まで様々な主体が協力して大きな枠組の下で取り組むことが必要な課題もあることに留意して検討することが必要。
 - ・ 「現場」、「業務」及び「基盤」に分けて議論することでよいが、「業務」が行政事務を指しているとは必ずしも捉えられないため、一般向けに分かりやすい用語にしてはどうか。
 - ・ ベース・レジストリは各省庁が個別に整備するのではなく、全体最適を目指して関係省庁が連携して取り組むことが不可欠であり、農地に係るベー

ス・レジストリの整備は引き続き関係省庁と連携して進めてほしい。

- ・ 民間事業者の活動を促進するため、今後行政が整備するシステムは米国のように原則オープンソースとするなど、オープンデータやオープンソースの取組を積極的に進めてほしい。
- ・ 「現場」、「業務」及び「基盤」と区分されているが、例えば「現場」にはバリューチェーン全体が含まれているなど対象が幅広いので、関係するプレイヤーやデータの種類ごとに課題を検討しながらプロジェクトを個別具体化していくのがよいのではないか。
- ・ 各区分を過度に分けるのではなく、スマート農機で得られたデータを補助金申請にそのまま活用する場合のように、「現場」と「業務」がつながる取組もあることも留意すべき。
- ・ データの標準化やデータ提供プラットフォームについては、関係省庁だけでなく、自治体も巻き込んだ取組とすべき。

○ 第4回検討会では、本日議論された内容や、農業・食関連産業の関係者からの意見募集の結果を踏まえ、さらに議論を進めることとなった。

(以上)

(別紙)

農業DX構想(仮称)検討会(第3回)

出席者名簿

(五十音順、敬称略)

泉 翔太 神奈川県厚木市 農業委員会事務局 主事

大橋 弘 東京大学 公共政策大学院 院長

荻野 浩輝 一般社団法人 AgVenture Lab 代表理事

休坂 健志 株式会社オプティム 取締役

下山 紗代子 内閣官房 IT 総合戦略室政府 CIO 補佐官/一般社団法人リンクデータ 代表理事

○中谷 朋昭 東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授

◎三輪 泰史 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター エクスパート

(◎は座長、○は座長代理)